



日薬連

**日薬連
循環型形成自主行動計画の取り組み**

経団連循環型社会形成自主行動計画



日薬連

- 1997年：廃棄物対策に係る「環境自主行動計画」を策定（35業種の参加）
- 1999年：第一次目標「**2010年度の産業廃棄物最終処分量を1990年度実績の75%減**」の設定
- 2007年：「環境自主行動計画〔循環型社会形成編〕」への改編
第二次目標「**2010年度の産業廃棄物最終処分量を1990年度実績の86%減**」の設定
業種別独自目標の策定（最終処分量以外の目標を設定）
- 2010年：第三次目標「**2015年度の産業廃棄物最終処分量を2000年度実績の65%程度減**」の設定
- 2016年：「循環型社会形成自主行動計画」を策定
第四次目標「**2020年度に2000年度実績比70%程度削減**」の設定
- 2021年：第五次目標「**低炭素社会の実現に配慮しつつ適切に処理した産業廃棄物の最終処分量について、2025 年度に2000 年度実績比75%程度削減を目指す**」の設定

産業廃棄物**最終処分量**の削減を中心とした3Rの推進

経団連循環型社会形成自主行動計画



日薬連

2021年度以降の循環型社会形成自主行動計画の方針

- 2021年度以降も、循環型社会の形成を目指し、自主行動計画を継続
- 海洋プラスチック問題や諸外国の廃棄物輸入規制など、新たな課題への対応も求められている。

産業廃棄物最終処分量の削減（第五次目標）

低炭素社会の実現に配慮しつつ、適切に処理した産業廃棄物の最終処分量について、産業界全体として、「2025年度に2000年度実績比75%程度削減」を目指す。

資源循環の質の向上を視野に入れた個別業種ごとの目標

業種ごとの特性や事情等を踏まえた、資源循環の質の向上に向けた「業種別独自目標」を任意に設定し取り組んでいく。

業種別プラスチック関連目標（2019年度～）

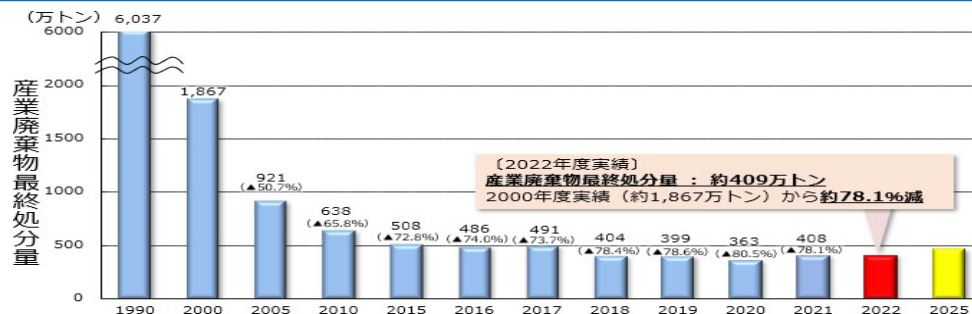
海洋プラスチック問題の解決やプラスチック資源循環の推進に貢献する目標を設定。更なる目標の充実に努めるとともに、これらの取組みを広く内外に情報発信する。

2023年度FU調査結果(案) (2022年度実績)

産業界全体の目標：産業廃棄物最終処分量の削減

第五次目標『**低炭素社会の実現に配慮しつつ適切に処理した、産業廃棄物の最終処分量**について、**2025年度に2000年度実績比75%程度削減**を目指す』

- 2022年度産業廃棄物**最終処分量実績**(32業種の合計値)：**約409万トン**
⇒ 2000年度実績比**約78.1%減** (2021年度実績と比較して、約1万トン(約0.3%)増加)
- **41業種**が業種ごとの特性・実情等に応じた**独自目標**を掲げて取り組みを実施
- **業種別プラスチック関連目標** (2019年度より追加) **41業種が82件の目標**を表明



日薬連は

- 1997年より経団連環境自主行動計画(循環型社会形成編)に参加
- 2015年度までは製薬協環境安全委員会が取りまとめを実施、2016年度からは、**日薬連環境委員会に設置したWG（循環型社会形成自主行動計画WG）**が主体となって対応
- 直近では、2016年度から2020年度を目標年度とした第5期自主行動計画を実行、行動目標を**全て達成**
- 2025年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標の設定

経団連循環型社会形成自主行動計画への対応

- 日薬連循環型社会形成自主行動計画の目標策定
- 循環型社会形成自主行動計画の進捗把握・推進を目的に、例年、
 - 日薬連傘下4団体（製薬協、GE薬協、OTC薬協、日漢協）の会員企業を対象に廃棄物の発生・処理状況等の調査を実施
 - 調査結果をもとにフォローアップ報告書を作成し、経団連に提出
 - 調査結果を報告書として取りまとめ会員企業に配信・共有

2021年度以降の自主行動計画

数値目標（統一目標）

- 低炭素社会の実現に配慮しつつ適切に処理した産業廃棄物の最終処分量について、**2025年度に2000年度実績比75%程度削減**を目指す。

日薬連 独自目標

- **2025年度の廃棄物再資源化率を60%以上にする。**
- **2030年度の廃プラスチック再資源化率を65%以上にする。**

日薬連 定性目標

- 加盟企業の資源循環の質を高める3R取り組み状況を定期的に把握し、事例などの情報共有化を通じて各社の更なる取り組み推進を図る